



卒業年次アンケート②

前号では「卒業年次アンケート2017」*の中から、総合入試に関する回答を紹介しました。今回は、学業、部活動、アルバイトなど大学生活に関する内容と卒業後の進路についてのアンケート結果をお伝えします。 ※2017年12月～2018年2月28日実施

【総合的にみて入学から卒業までの大学生活は充実していましたか】という設問に対し、約9割の学生が「充実していた」「あるいはどちらかといえば充実していた」と回答しました。

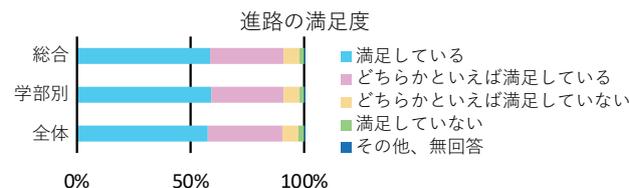


その内訳をみると、教養、専門知識や技能の習得、部活動/サークル活動、アルバイトにおいて8割以上の方が「充実していた」「あるいはどちらかといえば充実していた」と回答しています。自由記述欄でも「人間力が向上した。<工・その他>」とあり、学業とともに生活面でも概ね充実した時間を送っていたようです。しかしながら、「もっと学部間の交流の場があれば研究や社会経験の面でプラスになった。<薬・総合>」といった声もあり、改善の余地があることも分かりました。難易度の高い学部・学科を志望するため、部活・サークルやアルバイトを控える学生は多いと思いますが、若さを武器にメリハリをつけて課外活動にも取り組み、実りある大学生活が送れるよう様々なことに是非チャレンジしてみてください。

一方、ボランティア活動や国際交流に関する充実度につい

て、同様に感じている学生は5割を下回りました。特に目立った意見として、「英語を使う機会が少なすぎる。<工・総合>」「グローバル化を進めているが語学の授業が2年次以降ほとんどない。<工・学部別>」「もっと国際的な人材の育成や英語による授業が欲しかった。<農・総合>」「留学しても留年にならない制度を拡充してほしい。<水・学部別>」があり、前年よりも外国語を重視し海外に高い関心を寄せる意見が多くありました。LSOでは、留学生のチューターを囲み気楽に会話を楽しむ「英語コミュニケーション」を例年実施しています。国際交流の場としても活用できますので、準備が整い次第お知らせします。

最後に進路について、北大生の9割が卒業後の進路が決まっており、【決定した進路について満足しているか】の設問に対して9割の学生が「満足している」もしくは「どちらかといえば満足している」と回答しています。



在学部・学科の満足度においても8割以上の方が同様の回答をしており、概ね希望通りの勉学と進路選択が出来ているようです。しかし満足していない学生も一定数います。LSOでは、移行や進路に関する相談を随時受け付けています。また、進路選択に関するセミナーも予定しています。今後も学部・学科選択のミスマッチの減殺に努めて参ります。 (秋山永治)

注) 総合は総合入試、学部別は学部別入試、その他は編入等による入学者を指す

スタッフの心象 第18回「学習サポート利用状況と履修相談」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

LSOに着任して早半年、LSOでは学習サポート関連の業務を中心にを行っています。今年度の第1学期は昨年度と比較すると利用者数が急増した結果として、長時間の対応待ちや利用を断らざるを得ない場面が多くありました。定期試験期間前には現状可能な範囲でチューターの増加などの対策を実施しましたが、依然として十分な対応ができたとは言えません。例年の傾向から、第2学期は第1学期に比べて利用者数は幾分減少していくため第1学期に比べると利用し易くなると思います。

私は素粒子物理学の研究を専門としていますが、LSOでは主に数学(線形代数学、微分積分学)の学習サポートを行っている関係上、主に総合理系の学生から第2学期の数学科目に関する履修相談を受けることがあります。概ね「移行点算出と卒業要件に必要な基礎科目数学の4単位は第1学期の線形代数学Iと微分積分学Iで取得する予定なので、第2学期に開講される

線形代数学IIと微分積分学IIを履修する予定はないが、2年次以降の講義などに支障はないだろうか」というような内容になっています。本学では移行点や履修単位制限などの関係で単位取得の難しいと言われている科目が避けられる傾向にありますが、1年次の線形代数学と微分積分学はより高度な数学だけでなく、物理学、化学、統計学などを学ぶための基礎知識となりますので、基本的に全ての理系学生が1年次の線形代数学と微分積分学の講義を履修することを推奨したいと思います。特に、入学時に配布される総合教育部便覧の各学部・学科等要望科目や各学部の学生便覧(ラーニングサポート室で閲覧可)を確認し、物理学や化学が推奨または専門科目に含まれる学部・学科を希望している学生には第2学期にも数学科目を履修することを強く推奨したいと思います。 (山津直樹)



☆ラーサポ ベストラーナーシリーズ☆

ラーサポを何度も利用し、かつ優秀な成績を修めた学生を“ラーサポ ベストラーナー”と称し、勉強への取り組み方や進路決定にまつわる紆余曲折などを綴って頂きます。

今回のベストラーナーは、学習サポートを最も活用された学生の1人で、大学生活の中でやりたいことを見つけ工学部環境社会工学科への進路変更を果たした大池里志さんです。

「ラーニングサポート室活用法」

工学部環境社会工学科建築都市コース2年 大池 里志

ここでは、私のラーニングサポート室を利用した経験と効果的な活用法について紹介します。私の志望学科は農学部畜産科学科で、そこに移行するには高い移行点が必要でした。大学での勉強は高校の系統的な学習とは異なり、良い成績を収めるには自らが必要なものを主体的に学んでいき深い理解を追求する必要があります。大学の授業は個人の理解度と関係なく速いスピードで進んで行くので、授業中に理解できないことが多くありました。それを解決し理解を確かなものにするためにラーニングサポート室を利用していました。特に、線形代数学は高校では習わなかったので行列などの考え方を理解するのに苦労しましたが、ラーニングサポート室の方々と一緒に勉学に取り組むことで自分の疑問点を解消し理解を向上させることが出来ました。

ラーニングサポート室を利用していく上で感じた重要なことは、ラーニングサポート室のスタッフの方々はどうな質問にも答えようとしてくれますが、まず自分の分からない点を明確にしてから質問すると自身の理解に繋がり効率的であるという点です。「この単元が全部分からない」と言われてもスタッフの方々は何を説明したらいいのか分からないですし、文字通り最初から全て説明すると時間がかかり、質問者が分かっている範囲も説明することになって、お互いに無駄な時間を過ごしてし

まいます。また、自分で考える努力をしないと他力本願となり、自身の理解に繋がらなくなります。そうならないために、ある程度は自力で理解することに努め、それでも理解できなかったところを質問するべきです。

そうは言ってもほとんど理解できない授業もあると思います。私の場合は、自然化学実験が全然分かりませんでした。そういうときは、勉強に取り組む第一歩を掴むためにラーニングサポート室に相談に行きました。自然科学実験ではそれぞれの実験に対して考察すべき課題が与えられています。私はまず分かりそうな課題は自力で考えて、難しい問題においても絶対違うだろうなど思いつつ自分なりの考えを持っていくようにしました。それを足掛かりとして徐々に質問を具体化し、自分が理解していない点を明確にしていきました。そして、それぞれの課題に対する考え方や解決に向かうアプローチの仕方を理解するようになりました。これを繰り返して何回かレポートを作成していくうちに、分からない課題に対して自分で調べて解答出来るようになりました。このような意識でラーニングサポート室を利用したことで、当初目指していた学科に移行できるだけの成績を取ることができ、同時に自力で解決していく能力を培うことができました。

最後に、皆さんが進学する上での参考になるよう自分自身の進路選択につ

いて紹介しようと思います。冒頭で述べたように、当初私は農学部畜産科学科を志望していましたが、そこにどうしても行きたいという強い意志はなく、「せっかく北海道に来たから農学部かな?」といった漠然とした考えをしていました。しかし、実際に大学の講義を受けてみて、自分のやりたいことは生物学分野ではないことを知りました。そして、大学生活を送るうちに、自分の関心のある分野の学部学科に進みたいと考えようになりました。

私は新渡戸カレッジのフェローゼミで自転車社会について考える機会があり、それをきっかけに都市計画に興味を持ちその分野について勉強したいと思いました。その結果、工学部環境社会工学科建築都市コースに決めました。もし、学部別入試で入学していたらこのような進路選択はできなかったのではないかと思います。どこで自分の興味のある分野を発見できるかわかりません。高校生のうちに進路を早く決め必要な勉強に打ち込んでいく方向もあると思いますが、高校よりも遥かに豊富な情報が得られる大学環境で、様々な考えを持つ人と出会い、新しい学問を学び、見識を広げた上で進路を決めていく方向もあるのだと思いました。普段から色々なところにアンテナを張り多角的な視点を持つことが大切だと感じています。

編集後記

1学期は数学に関する質問が多かったため、2学期からは数学の対応時間を増やしていきます。加えて、2学期のスタディ・スキルセミナーの内容を改訂しました。また、学生さんからの要望に応じて、夏季休暇中に高校物理を復習する補講を開催し、震災直後であったにも関わらず多くの方々に参加して頂きました。今後も学生の皆さんの希望に応えられるよう学修支援のさらなる充実に取り組んで参ります。

(秋山永治)

ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:https://lso.high.hokudai.ac.jp/

次号は12月発行予定です

